【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第１区分
【発行日】平成21年4月2日(2009.4.2)

【公表番号】特表2008-507282(P2008-507282A)
【公表日】平成20年3月13日(2008.3.13)
【年通号数】公開・登録公報2008-010
【出願番号】特願2007-522752(P2007-522752)
【国際特許分類】
*Ｃ１２Ｎ　15/09　(2006.01)*
*Ａ６１Ｋ　38/00　(2006.01)*
*Ａ６１Ｋ　35/12　(2006.01)*
*Ａ６１Ｋ　35/76　(2006.01)*
*Ａ６１Ｋ　35/74　(2006.01)*
*Ａ６１Ｐ　43/00　(2006.01)*
*Ａ６１Ｐ　37/02　(2006.01)*
*Ａ６１Ｐ　25/28　(2006.01)*
*Ａ６１Ｐ　25/14　(2006.01)*
*Ａ６１Ｐ　25/16　(2006.01)*
*Ａ６１Ｐ　3/04　(2006.01)*
*Ａ６１Ｐ　19/02　(2006.01)*
*Ａ６１Ｐ　19/08　(2006.01)*
*Ａ６１Ｐ　9/12　(2006.01)*
*Ａ６１Ｐ　1/04　(2006.01)*
*Ａ６１Ｐ　25/24　(2006.01)*
*Ａ６１Ｐ　19/06　(2006.01)*
*Ａ６１Ｐ　25/06　(2006.01)*
*Ａ６１Ｐ　3/06　(2006.01)*
*Ａ６１Ｐ　9/10　(2006.01)*
*Ａ６１Ｐ　3/10　(2006.01)*
*Ａ６１Ｐ　1/16　(2006.01)*
【ＦＩ】
Ｃ１２Ｎ　15/00　ＺＮＡＡ
Ａ６１Ｋ　37/02
Ａ６１Ｋ　35/12
Ａ６１Ｋ　35/76
Ａ６１Ｋ　35/74　Ｚ
Ａ６１Ｐ　43/00　１１１
Ａ６１Ｐ　37/02
Ａ６１Ｐ　25/28
Ａ６１Ｐ　25/14
Ａ６１Ｐ　25/16
Ａ６１Ｐ　3/04
Ａ６１Ｐ　19/02
Ａ６１Ｐ　19/08
Ａ６１Ｐ　9/12
Ａ６１Ｐ　1/04
Ａ６１Ｐ　25/24
Ａ６１Ｐ　19/06
Ａ６１Ｐ　25/06

Ａ６１Ｐ　3/06
Ａ６１Ｐ　9/10
Ａ６１Ｐ　3/10
Ａ６１Ｐ　1/16

【手続補正書】
【提出日】平成21年2月12日(2009.2.12)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
ａ．ＣＤ８ポリペプチドをコードする第１の核酸配列；
ｂ．自己反応性Ｔ細胞応答に関連する自己抗原の少なくとも１つのエピトープをコードする第２の核酸配列；および
ｃ．標的細胞における発現のための、前記第１の核酸および前記第２の核酸に作動可能に連結された制御配列
を含む、ポリヌクレオチド。
【請求項２】
前記第１の核酸がヒトＣＤ８α鎖をコードする、請求項１に記載のポリヌクレオチド。
【請求項３】
前記自己抗原が、インスリン、プロテオリピドタンパク質ＰＬＰ－１、ミエリン塩基性タンパク質、ミエリンオリゴデンドロサイト、糖タンパク質、グルタミン酸デカルボキシラーゼ２、コリンレセプターγ鎖、サイログロブリン、ＩＩ型コラーゲン、α１マトリックスメタロプロテイナーゼおよびＭＭＰ－１からなる群より選択される、請求項１または２に記載のポリヌクレオチド。
【請求項４】
ＣＤ８ポリペプチドおよび自己反応性Ｔ細胞応答に関連する自己抗原の少なくとも１つのエピトープをコードする発現ベクターを含む、自己反応性Ｔ細胞応答を阻害するための治療用組成物。
【請求項５】
前記発現ベクターが前記自己抗原の複数のエピトープをコードする、請求項４に記載の治療用組成物。
【請求項６】
前記ＣＤ８ポリペプチドおよび前記自己抗原の少なくとも１つのエピトープの発現が、同じプロモーターの制御下にある、請求項４に記載の治療用組成物。
【請求項７】
ＣＤ８ポリペプチドをコードする第１の発現ベクターおよび自己反応性Ｔ細胞応答に関連する自己抗原の少なくとも１つのエピトープをコードする第２の発現ベクターを含む、自己反応性Ｔ細胞応答を阻害するための治療用組成物。
【請求項８】
前記第２の発現ベクターが前記自己抗原の複数のエピトープをコードする、請求項７に記載の治療用組成物。
【請求項９】
前記第２の発現ベクターが、前記自己反応性Ｔ細胞応答に関連する第２の自己抗原の少なくとも１つのエピトープをさらにコードする、請求項７または８に記載の治療用組成物。
【請求項１０】

前記自己反応性Ｔ細胞応答に関連する第２の自己抗原の少なくとも１つのエピトープをコードする第３の発現ベクターをさらに含む、請求項７または８に記載の治療用組成物。
【請求項１１】
自己反応性Ｔ細胞応答に関連する自己抗原タンパク質またはそのフラグメント、およびＣＤ８ポリペプチドをコードする発現ベクターを含む、自己反応性Ｔ細胞応答を阻害するための治療用組成物。
【請求項１２】
複数の自己抗原タンパク質を含む、請求項１１に記載の治療用組成物。
【請求項１３】
前記ＣＤ８ポリペプチドがヒトＣＤ８ポリペプチドである、請求項４から１２のいずれか一項に記載の治療用組成物。
【請求項１４】
前記ＣＤ８ポリペプチドが、ヒトＣＤ８α鎖の細胞外ドメインおよび膜貫通ドメインを含む、請求項１３に記載の治療用組成物。
【請求項１５】
前記自己抗原が、インスリン、プロテオリピドタンパク質ＰＬＰ－１、ミエリン塩基性タンパク質、ミエリンオリゴデンドロサイト、糖タンパク質、グルタミン酸デカルボキシラーゼ２、コリンレセプターγ鎖、サイログロブリン、ＩＩ型コラーゲン、α１マトリックスメタロプロテイナーゼおよびＭＭＰ－１からなる群より選択される、請求項４から１４のいずれか一項に記載の治療用組成物。
【請求項１６】
標的抗原に対する自己免疫応答を阻害するための、標的細胞とエクスビボまたはインビボで接触する、請求項４－１５のいずれか一項に記載の治療用組成物。
【請求項１７】
前記標的細胞が筋細胞であり、標的細胞とインビボで接触する、請求項１６に記載の治療用組成物。
【請求項１８】
前記標的細胞が造血細胞である、請求項１６に記載の治療用組成物。
【請求項１９】
前記標的細胞が、リンパ球または抗原提示細胞である、請求項１８に記載の治療用組成物。
【請求項２０】
標的細胞とエクスビボで接触する、請求項１８または１９に記載の治療用組成物。
【請求項２１】
宿主における自己免疫疾患の発症を予防するための、または自己免疫疾患を治療するための、請求項４－１５のいずれか一項に記載の治療用組成物。
【請求項２２】
標的細胞とエクスビボまたはインビボで接触する、標的抗原に関連する自己免疫応答を阻害するための医薬の製造のための、ＣＤ８ポリペプチドをコードする第１の核酸配列および自己反応性Ｔ細胞応答に関連する自己抗原の少なくとも１つのエピトープをコードする第２の核酸配列を含む発現ベクターの使用。
【請求項２３】
前記第１の核酸配列がヒトＣＤ８α鎖をコードする、請求項２２に記載の使用。
【請求項２４】
前記発現ベクターが前記自己抗原の複数のエピトープをコードする、請求項２２に記載の使用。
【請求項２５】
前記ＣＤ８ポリペプチドおよび前記自己抗原の少なくとも１つのエピトープの発現が、同じプロモーターの制御下にある、請求項２２に記載の使用。
【請求項２６】

前記標的細胞が筋細胞であり、前記接触がインビボで行われる、請求項２２に記載の使用。
【請求項２７】
前記標的細胞が造血細胞である、請求項２２に記載の使用。
【請求項２８】
前記標的細胞が、リンパ球または抗原提示細胞である、請求項２７に記載の使用。
【請求項２９】
前記接触がエクスビボで行われる、請求項２７または２８に記載の使用。
【請求項３０】
前記自己抗原が、インスリン、プロテオリピドタンパク質ＰＬＰ－１、ミエリン塩基性タンパク質、ミエリンオリゴデンドロサイト、糖タンパク質、グルタミン酸デカルボキシラーゼ２、コリンレセプターγ鎖、サイログロブリン、ＩＩ型コラーゲン、α１マトリックスメタロプロテイナーゼおよびＭＭＰ－１からなる群より選択される、請求項２２から２９のいずれか一項に記載の使用。
【請求項３１】
標的細胞とエクスビボまたはインビボで接触する、標的抗原に関連する自己免疫応答を阻害するための医薬の製造のための、ＣＤ８ポリペプチドをコードする第１の核酸配列および自己反応性Ｔ細胞応答に関連する自己抗原の少なくとも１つのエピトープをコードする第２の核酸配列を含むポリヌクレオチドの使用。
【請求項３２】
前記第１の核酸配列がヒトＣＤ８α鎖をコードする、請求項３１に記載の使用。
【請求項３３】
前記ポリヌクレオチドが前記自己抗原の複数のエピトープをコードする、請求項３１に記載の使用。
【請求項３４】
前記ＣＤ８ポリペプチドおよび前記自己抗原の少なくとも１つのエピトープの発現が、同じプロモーターの制御下にある、請求項３１に記載の使用。
【請求項３５】
前記自己抗原が、インスリン、プロテオリピドタンパク質ＰＬＰ－１、ミエリン塩基性タンパク質、ミエリンオリゴデンドロサイト、糖タンパク質、グルタミン酸デカルボキシラーゼ２、コリンレセプターγ鎖、サイログロブリン、ＩＩ型コラーゲン、α１マトリックスメタロプロテイナーゼおよびＭＭＰ－１からなる群より選択される、請求項３１から３４のいずれか一項に記載の使用。
【請求項３６】
宿主における自己免疫疾患を処置するための医薬の製造のための、ＣＤ８ポリペプチドをコードする第１の発現ベクターおよび自己免疫疾患に関連する自己抗原の少なくとも１つのエピトープをコードする第２の発現ベクターを少なくとも含む複数の発現ベクターの使用。
【請求項３７】
前記自己抗原が、インスリン、プロテオリピドタンパク質ＰＬＰ－１、ミエリン塩基性タンパク質、ミエリンオリゴデンドロサイト、糖タンパク質、グルタミン酸デカルボキシラーゼ２、コリンレセプターγ鎖、サイログロブリン、ＩＩ型コラーゲン、α１マトリックスメタロプロテイナーゼおよびＭＭＰ－１からなる群より選択される、請求項３６に記載の使用。
【請求項３８】
前記第１の発現ベクターがヒトＣＤ８α鎖をコードする、請求項３７に記載の使用。
【請求項３９】
前記第２の発現ベクターが前記自己抗原の複数のエピトープをコードする、請求項３７に記載の使用。